Cosmos DBの論理構造(ユーザーによる設定が可能)

Cosmos DBアカウント

データベース

コンテナー

項目

世界中で一意の名前、 リージョン、 API(データモデル)を指定

読み取りリージョンの追加、マルチリージョン書き込み、 規定の整合性、ネットワーク、バックアップ、 暗号化、容量モードなどの設定

名前(Database id)、 スループット(RU) を指定

> 名前(Container id)、 スループット(RU)、 パーティション キー (パス形式)を指定

RDBのテーブル(表)に相当

RDBの行に相当 作成、更新、削除、アップサート、 読み込み

パーティションキー

コンテナー内で 一意の値

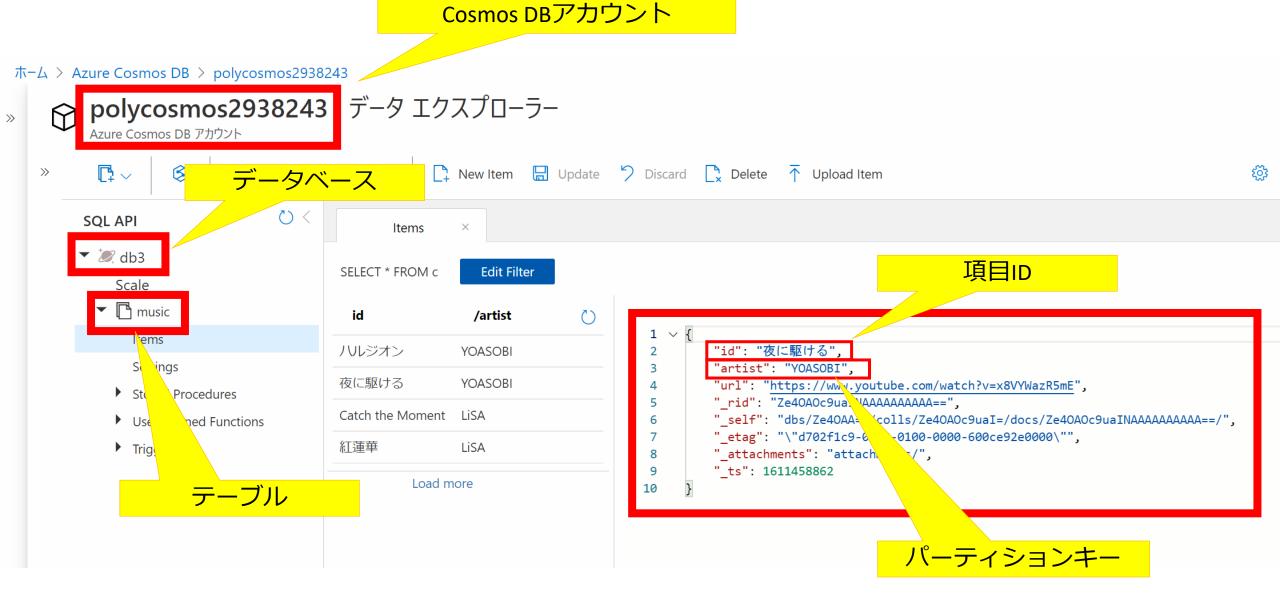
項目ID

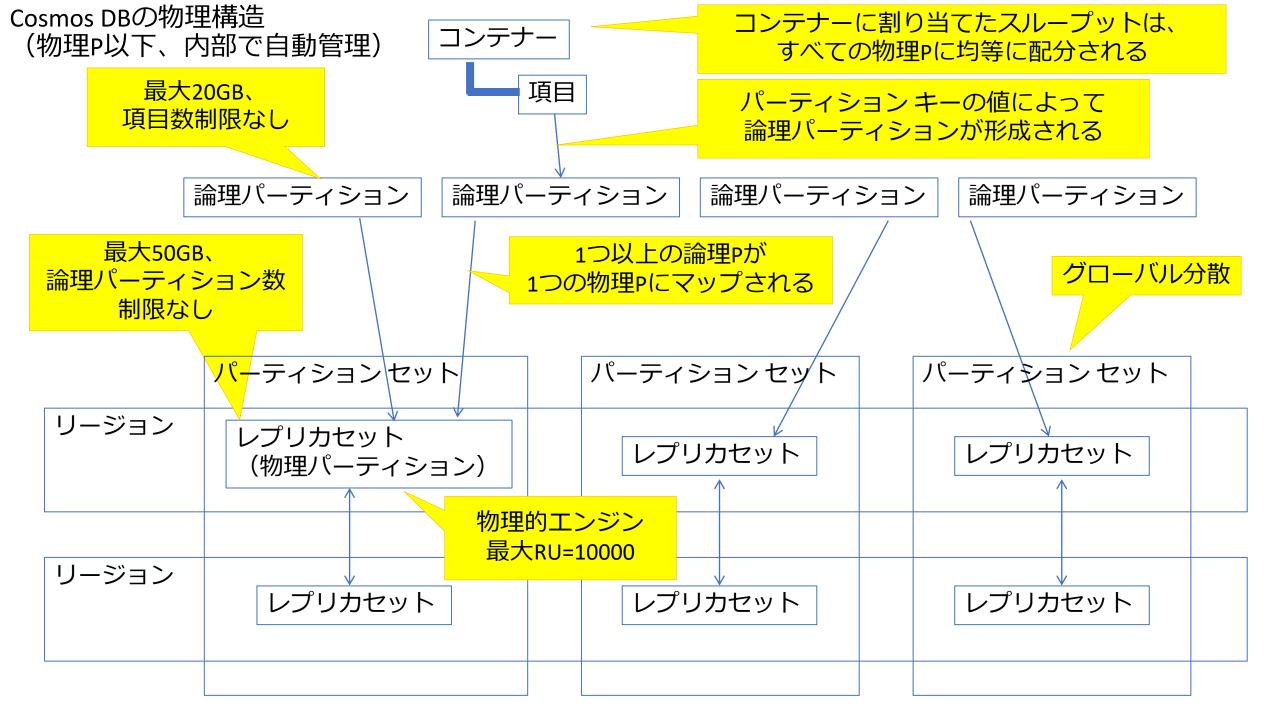
同じパーティション キー値を持つ 複数の項目内で一意の値

名前はコンテナー作成時に パス形式で指定したもの、 値は文字列または数値、 必須ではない、 項目作成後の変更不可

名前は「id」、 値は文字列、必須、 項目作成後の変更可

具体的な例





具体的な例

music コンテナー

:10000 RUを割り当て

